

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	副校長 加藤久晴	A：よくできた B：だいたいできた C：不十分だった D：ほとんどできなかった		
今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画				評価	成果と課題	自己評価	関係者評価
1	静岡県に唯一認可された狭域通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。	①基礎学力の確実な定着を図るため、各教科担当間のコミュニケーション量を増やし情報共有をした上でより分かりやすい授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ②学校内はもとより校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的に関わられるようにする。 ④進路選択において必要な基本的知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるよう導く。				B	①同じ教科の担当者で連絡を密にし進捗や状況を確認しながら授業展開が出来た。 ②校外（アルバイト先や他校の友人関係）での状況も把握（確認）し生徒指導ができた。 ③色々な行事を通じて友達作りから始め、社会性（協力性）が確立できた。 ④早期の面談により進路選択の意識を高め、保護者を交えて定期的に話し合いの時間を取れた。		A
2	生徒一人一人の個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。	①困難を有する多様な生徒（不登校傾向・問題行動・発達障害等）が積極的かつ十分な教育を受けられるように、学習に対する動機付けや学びの意欲を喚起できる教員の育成（スクールカウンセラーの活用） ②個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分に対応できる教員を育成する。専門の機関（企業）の協力を進める。 ③各校舎・教科単位での内部研修を実施し、キラリ高校の職員としての共通認識の上で、教職員の組織化を推進する。また外部研修を活用して多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。全体教科研修の定例化 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修・復学を促す活動をする。家庭訪問の計画的実施を行う。				A	①スクールカウンセラーの助言のもと病院や行政とも連絡をしながら対応ができた。 ②役割分担が確立しつつあり、個々の生徒対応、部活動の拡大、外部（進路先）との連携が以前に比べ整ってきている。 ③組織化されたことでやるべき事が個々のレベルで明確になってきたので、教員一人ひとりのレベルでの成長が今後の課題である。 ④多くの教員が該当生徒の状況改善に真剣に携わっている。電話相談、手紙での連絡、家庭訪問等で一定の改善は見られるが課題は残ってる。		A
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム（コース）の改編に取り組み、通学タイプの充実を図る。	①より多くの生徒が通学タイプの全日スタイルを選択しやすいうように、コース内容の再編を図り、魅力あふれる内容の転機を目指す。 ②①を推進するために、各スクーリング会場ごとにコース担当を決め、会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。 ③他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。				B	①コース内容は年々充実してきているが、生徒からのニーズにさらに近づけなければならぬと思う。 ②定例会議をすることにより、意見交換や課題の分析ができた。適宜、生徒（保護者）へのアンケート調査を実施したい。 ③他会場との協力や連携は積極的にできた。他会場の状況を実際に見学できればと思う。		B
4	吉田本校の整備・拡充	①定着しつつある、週3日の平日スクーリング（ウイークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等、様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ②図書室の蔵書を充実させる（興味のある書物の増加）とともに、読書習慣の定着を図る。				B	①生徒の平均登校率も安定している。部活動への興味関心も高まり、新しい活動希望も増えている。特別支援学校でのボランティア活動へも参加できた。 ②蔵書を増やすことができ、図書委員の活動で蔵書整理も進みつつある。不登校経験がある生徒がほとんどなのでなかなか読書習慣を定着させることには課題があるが、重要性を説きながら推進していきたい。		A
5	I C T 教育及び、校務システムの整備事業	①インターネット授業配信を円滑にすすめ、さらにレポート（添削指導）のデジタル化への移行準備を推進する。 ②校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充を図る。				B	①次年度よりレポートの電子化を導入するため、業者の選定から教職員との打合せまで準備が整った。 ②校務システムに関しても試験運用をしながら必要な機能を再検討し本格実施を進めていきたい。		B